

あの日のからのつながりがいつもあるから

1月17日、午前5時46分、京阪神を襲った大震災は、6,434人の命を奪った。あの日から20年目を迎えようとしている。今年も犠牲者の鎮魂と追悼、街の復興を祈念し行われた神戸ルミナリエには344万人が訪れた。そして、明日は、東日本大震災から3年10ヶ月である。津波被害から町を守るための嵩上げ工事や、放射能汚染を取り除く作業など復興へ向けての動きがある。しかしそのスピードにもどかしさを感じるのは被災者だけではない。

仮設入居の方々からの感謝の言葉



恒例になったクリスマスプレゼントは、みなさんから多額の募金によって大量に購入することができました。防寒用に手袋、帽子、ネックウォーマー、靴下、ダウンベスト、パーカーなど大人用と子供用を揃えた他、文房具やぬいぐるみや部屋着などの数々の他に向日葵の種や、オリジナル曲のCDミラーオクロックなどなど。そしてみなさんが終業式に書いてくれたメッセージカードもしっかりとプレゼントごとに包装したかわいい袋に入れてお届けしました。

皆様の温かいお気持ちに触れることができました。なごやかな気持ちになることができました。
当仮設入居者全員より心から御礼申し上げます。 <仮設住宅婦人部長より>

素敵なプレゼントを頂きました。私は仮設商店会で草月流のお花を教えています。特に私は向日葵が大好きです。明るくて元気がもらえます。気仙沼の合同の花展が行われますが、息子が作った縄文土器に向日葵をいっぱい生けて出品したいと思います。皆様の温かい心を頂戴致し、見事に咲かせて生けてみますね。本当に有り難うございました。 <鹿折復興マートはんこ屋より>

今年もクリスマスプレゼントを有り難うございました。鹿折復興マートの各店舗の方々にお配り致しました。いつも被災地のことを考えて頂き感謝しています。私たちの仮設商店は嵩上げ工事のため移転しましたが、そこも2年後には嵩上げ工事になり移転です。なかなか私たちの思っているようにはなりません。商店街の人々は頑張っておられます。 <鹿折復興マート理事長>

プレゼント購入を担当しての思いの数々

自分達が11円募金で集めたお金で被災地の人達が喜んでくれたらと思いつつ、自分の両手がいっぱいになるまで買い物をしようと思いついていなかったのですが、これほどの量の衣類や文房具を必要とされてる方がまだ沢山いるのだと思うと改めて胸が痛くなりました。(高2 近藤)

私たちが買ったものが東日本に届けられるという嬉しさでいっぱいでした。買ったものを着てくれたりして喜んでる人の顔を思い浮かべながら買い物をすることができました。復興がまだ進んでいないということを胸に刻み、忘れないことが大切だと思いながら買い物をしました。(高1 三升)

トークリレー

今回はディーン先生の担当です。

Today I would like to try to connect 2 things in your mind that perhaps are not linked now. They are the Fukushima nuclear disaster and democracy. First, what does “democracy” mean to you? In English the word comes from Greek and means “rule by the people.” And of course in Japanese “minshushugi” means the same. A long time ago in the Greek city-state of Athens, people developed the ability to rule themselves. It only lasted for about 200 years—then the kings and warlords killed the dream. But humanity remembered. And millennia later, ordinary citizens reclaimed the God-given right to rule themselves. This includes of course the ancient civilization of Japan, which had to suffer unbelievable hardship, including foreign prejudice and even invasion, before becoming a modern democratic nation. What’s the connection to Fukushima? It’s simple: an outrage like that is only possible when democracy has broken down. From a 2013 WHO report: “it is predicted that for populations living in the most affected areas there is a 70% higher risk of developing thyroid cancer for girls exposed as infants (the risk has risen from a lifetime risk of 0.75% to 1.25%), a 7% higher risk of leukemia in males exposed as infants, a 6% higher risk of breast cancer in females exposed as infants and a 4% higher risk, overall, of developing solid cancers for females.” Now imagine you are the parents of one of these poor innocent children. A fundamental break-down in democracy, an unforgivable breach of trust between the citizens and the state: that’s what Fukushima represents. After all, what good is a government when it not only cannot protect, but colludes with academia and business to actually poison and blight the lives of its own citizens? If this event does not make you angry as a patriotic Japanese citizen, I honestly do not know what ever could.

「福島原発事故」と「民主主義」、皆さんはこの2つを結びつけて考えたことはないかもしれません。

今日は、この2つのつながりについて考えてみたいと思います。

まず、あなたにとって「民主主義」とは何を意味していますか？英語の「民主主義 (democracy)」の語源はギリシャ語で、「人民を主にした政治」という意味です。日本語の「民主主義」ももちろん同じ意味です。大昔、ギリシャの都市アテネで人びとは自分たち自身を統制する力を生み出しました。その力は王や軍事的指導者によって破壊されたため、200年ほどしか続きませんでした。人類は覚えていました。千年後、一般市民がその力を再び取り戻したのです。しかし日本が近代民主主義国家になるまでには、外国からの偏見や侵略など、数々の困難がありました。このことが福島原発の話とどうつながっているのでしょうか？答えは簡単です。民主主義が機能しなくなった時にあのような出来事が起こるのです。2013年のWHO報告書によれば、「被害が最も大きかった地域で被ばくした女子の甲状腺がんを発症するリスクは70%増加し、生涯で甲状腺がんにかかるリスクが通常0.75%に対し、1.25%に上昇する」との試算が出ました。また、「子どものころの被ばく影響による生涯発症リスクは、男性の白血病で7%、女性の乳がん6%、女性についてのすべての固形がん4%の上昇が予測される」としています。自分の子どもが被ばくしたと想像してみてください。民主主義の根本的な崩壊、国家に対する不信…それが福島原発事故に象徴されている事柄なのです。国民を守れず、産学と共謀して私たちの生活を脅かすような政治に対し、日本人としてみなさんも怒りを覚えることはありませんか？